



## 1. ITER サイトでの建設活動が順調に進展

南仏にある ITER サイトでの建屋の建設は、昨年 8 月に本格的に開始されてから順調に進展し、今年 2 月半ばにはトカマク複合建屋ピット(幅 87 m、長さ 123.6 m、深さ 17 m)の掘削作業がほぼ完了しました(図 1)。今後は、最終的な地質調査を実施し、コンクリートの打設作業が開始される予定です。この他にも、ポロイダル磁場コイル巻線建屋と ITER 機構本部ビルの工事も順調に進められています。

## 2. ITER 計画の展示と ITER 機構職員募集説明会の実施

原子力機構では、ITER 機構への我が国からの職員の派遣に関する支援活動の一環として、これまで国内外で ITER 計画の展示説明や ITER 機構職員公募についての説明会を行っています。さらに ITER 機構職員公募の一層の周知を図るため、昨年 12 月 9、10 日に東京ビッグサイトで開催された「エコプロダクツ 2010」の原子力機構展示ブースにおいて、来訪者に ITER 計画の説明および資料の配布を行うとともに、ITER 機構職員募集および募集に関する情報を得やすくするために原子力機構が進めている登録制度の案内を行いました(図 2)。来訪者からは、ITER 計画の現況、核融合エネルギーの実用化や将来の展望についての質問や ITER 機構職員として採用されるために必要なスキル・経験などについての質問がありました。

また、11月30日～12月3日に北海道大学にて開催された第27回プラズマ・核融合学会年会の会場に出展し、ITER 計画の資料配布や ITER 機構職員募集および登録の案内を行いました(図 3)。

さらに、今年 2 月 18 日～20 日に米国ワシントン DC で開催された全米科学振興協会(AAAS)年次総会の原子力機構展示ブースにおいて、原子力機構における核融合研究計画や ITER 計画の説明を行うとともに、邦人の来訪者に対して ITER 機構職員募集と上記の登録制度の案内を行いました(図 4)。原子力機構展示ブースには、18日は約 200 人、19、20日はそれぞれ約 300 人の来訪者がありました。核融合に対する来訪者の関心は高く、将来のエネルギー源としての核融合への期待が強く感じられました。また、来訪者からは日本における核融合研究開発の現状に関する質問や、国際共同プロジェクトである ITER 計画における日本の役割、米国との関係などについての質問が多くありました。さらに、米国に滞在している邦人から、ITER 機構職員に募集する場合の応募窓口や手続きのプロセスなどについても質問がありました。

なお、これらの詳細については那珂 ITER ウェブサイト(<http://naka-www.jaea.go.jp>)の「ITER 機構職員募集説明会について」をご覧ください。

(日本原子力研究開発機構 核融合研究開発部門)



図 1 ITER トカマク複合建屋ピットの掘削工事がほぼ完了(2011年2月, ITER 機構提供)。



図 2 エコプロダクツ 2010(2010年12月9-10日於東京ビッグサイト)での展示の様子。



図 3 第27回プラズマ・核融合学会年会(2010年11月30日-12月3日於北海道大学)での展示の様子。



図 4 全米科学振興協会年次総会(2011年2月18-20日於米国ワシントン DC)での展示の様子。